

「将来の生活に関する意識調査」の結果概要

全国の満20～59歳を対象に、将来の生活設計にかかわる事柄を幅広く質問
家族形態や男女別などによる考え方の違いが明らかに

株式会社明治安田生活福祉研究所(社長 石原 義男)は、「将来の生活に関する意識調査」を実施いたしましたので、その概要をご報告いたします。

本調査は、全国の満20歳～59歳の男女を対象に、生活、家族、結婚、住まい、就労などに関する実態や価値観を尋ねています。家族形態などの属性別に分析を行なっているのが特徴です。

< 主な内容 >

- 共働きの夫の4割強が「妻は専業主婦がよい」(4ページ)
- 妻の家庭生活上の最大の不満点は、核家族では「家計」、親と同居していると「家庭内の雰囲気」(6ページ)
- ことわざどおり、子どもは「案ずるより産むが易し」(8ページ)
- 家事の分担は、子どものいる世帯のほうが「妻任せ」、子育ての分担は、どの世帯でも「夫婦平等」(10ページ)
- 定年間近の男性は、夫婦や家族の絆を重視。一方女性は、一定の距離をおく傾向(14ページ)
- 定年後、男性は息子世帯と「同居」、女性は子ども世帯と「近居」を希望(16ページ)
- パラサイト系シングルの男性は生活満足度が低く、女性とは対照的(17ページ)
- 東京より大阪のほうが伝統や習慣を尊重(21ページ)

ご照会先 (株)明治安田生活福祉研究所
生活設計研究部
奥野、森、濱田、柴田

電話：03(3283)9297 FAX：03(3201)7837
Eメール：rbj@myilw.co.jp

調査の概要

- (1) 調査期間 : 2005年2月16日～3月8日
 (2) 地域・対象 : 全国の満20～59歳の男女
 (3) 標本数 : 5,000人
 (4) 抽出方法 : (社)中央調査社 世帯マスターサンプルからの抽出
 (5) 調査方法 : 郵送法
 (6) 有効回答数 : 2,109人(有効回答率42.2%)
 (7) 回答者の属性

性別

男性	女性
1,030人(48.8%)	1,079人(51.2%)

年齢

(上段は実数、下段は占率 <%>)

	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳
男性	38	215	120	135	133	123	134	132
	3.7	20.9	11.7	13.1	12.9	11.9	13.0	12.8
女性	59	267	153	110	106	129	139	116
	5.5	24.7	14.2	10.2	9.8	12.0	12.9	10.8
計	97	482	273	245	239	252	273	248
	4.6	22.9	12.9	11.6	11.3	11.9	12.9	11.8

家族形態(1)

家族形態・属性				人数	男女計	
単身			親と同居	男性	227	509
				女性	282	
			親と別居	男性	81	207
				女性	126	
配偶者あり	共働き世帯	子どもあり	親と同居	男性	121	293
			女性	172		
		親と別居	男性	228	508	
			女性	280		
		子どもなし	親と同居	男性	8	18
			女性	10		
	専業主婦世帯(2)	子どもあり	親と同居	男性	76	98
			女性	22		
		親と別居	男性	201	282	
			女性	81		
		子どもなし	親と同居	男性	4	5
			女性	1		
親と別居	男性	11	24			
	女性	13				

1 家族形態不明の57人を除く
 2 専業主夫世帯の20人を含む

目 次

1 . 妻の就労の有無による夫の生活満足度 「共働き世帯」と「専業主婦世帯」の比較	p. 4
2 . 親世帯との住まい方による「家庭生活・家族関係」の満足度 「親同居世帯」と「親非同居世帯」の比較（子どものいる世帯）	p. 6
3 . 子どもを持つことのプラス面とマイナス面 共働きで「子どものいる世帯」と「子どものいない世帯」の比較	p. 8
4 . 家事の分担、子育ての分担の考え方 「子どものいる共働き世帯」「子どものいない共働き世帯」 「子どものいる専業主婦世帯」の比較	p.10
5 . 子どもを通じた近隣や地域社会とのつきあい 共働きで「子どものいる世帯」と「子どものいない世帯」の比較	p.11
6 . 子どものいない共働き夫婦の生活満足度と職業観	p.12
7 . 50 歳代後半の男女によって異なる家族観、夫婦観	p.14
8 . 50 歳代後半の世代の定年後の住まい方に関する意識	p.16
9 . パラサイト系シングルの男女によって異なる生活観	p.17
10 . 30 歳代未婚者の生活満足度と結婚観 同年代の既婚者、20 歳代の未婚者との比較	p.19
11 . 東京と大阪の生活観の比較	p.21

1. 妻の就労の有無による夫の生活満足度

「共働き世帯」と「専業主婦世帯」の比較

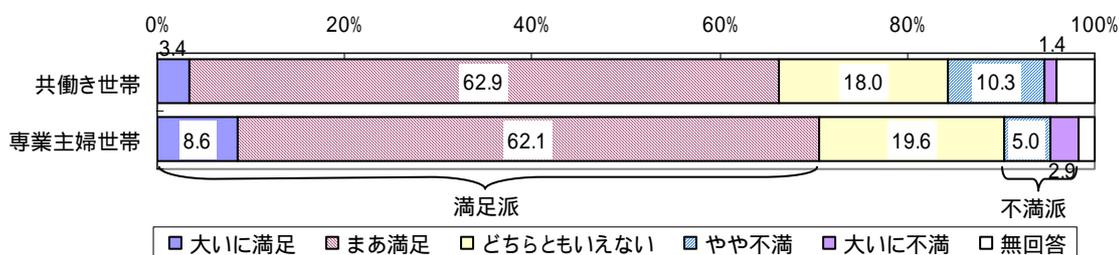
専業主婦世帯の夫のほうが、現在の生活に満足している人がやや多い
 家庭生活に不満な人の最大の理由は「家計の状態」とくに共働き世帯で顕著
 共働き世帯の夫の4割強が「妻は専業主婦がよい」

(1) 生活全般について満足している夫は、専業主婦世帯がやや多い(図表1-1)

「生活全般」に関する「満足派」(「大いに満足」と「まあ満足」)の割合は、専業主婦世帯(70.7%)が共働き世帯(66.3%)をやや上回っている。

「大いに満足」している人も、共働き世帯が3.4%に対し、専業主婦世帯は8.6%。

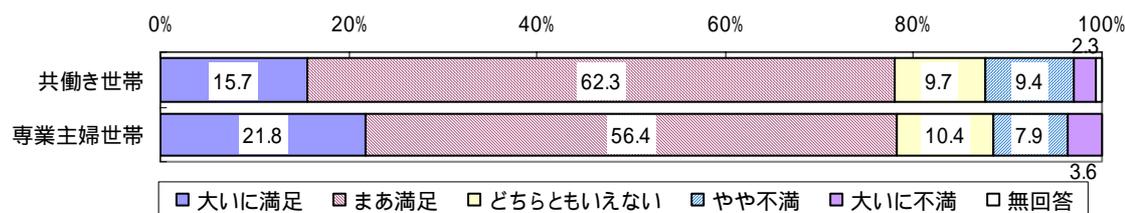
図表1-1 生活全般に関する「満足派」と「不満派」の割合



(2) 「家庭生活・家族関係」の不満点は「家計の状態」とくに共働き世帯で顕著

「家庭生活・家族関係」に関する「満足派」の割合は、どちらも8割弱で差はないが、「大いに満足」は専業主婦世帯が6ポイント上回る(図表1-2)。

図表1-2 「家庭生活・家族関係」に関する「満足派」と「不満派」の割合



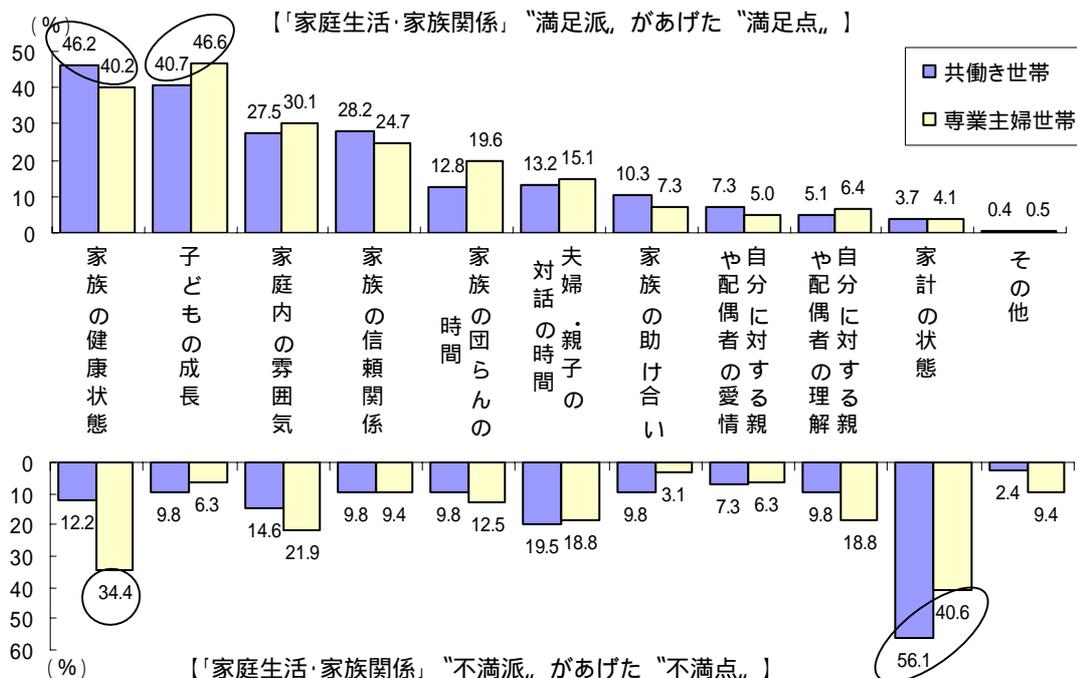
「満足派」には「とくに満足を感じる点」を、「不満派」には「とくに不満を感じる点」を尋ねた結果は図表1-3のとおり。

「満足派」は、どちらも4割以上が「家族の健康状態」と「子どもの成長」を満足点にあげている。ただし、共働き世帯と専業主婦世帯では1位と2位が逆。専業主婦世帯を選択する大きな理由のひとつが子育てにあることの反映か。

「不満派」の不満点は、「家計の状態」が突出。とくに共働き世帯では、「不満派」の過半数(56.1%)があげている。世帯年収では共働き世帯のほうが裕福な場合が多いにもかかわらず、「家計の状態」を不満点にあげる人が多いのは、自分ひとりの収入で家族を支えきれていないことに対する不満感の表れとみることもできようか。

専業主婦世帯の“不満派”の34.4%が「家族の健康状態」をあげている。専業主婦世帯の妻の中には、家族の看病や介護のためにやむなく仕事を辞めた人も、かなり含まれていると考えられる。

図表 1-3 「家庭生活・家族関係」の満足点と不満点（複数回答）



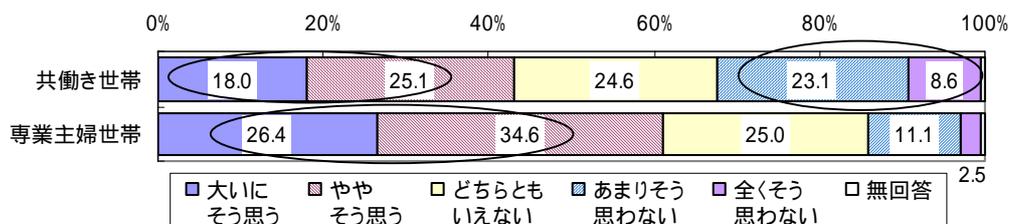
(3) 共働き世帯の夫の4割強が、自分に十分な収入があれば妻は専業主婦がよい(図表 1-4)

専業主婦世帯の男性の6割強が現状を肯定し、専業主婦を支持している。

一方、共働き世帯では、専業主婦を支持しない層が31.7%（うち強い反対が8.6%）であるのに対し、それを上回る43.1%が専業主婦を支持し、しかも強く支持する層が18.0%も存在している。

共働きの男性の間でも、“自分自身に十分な収入があれば、妻は専業主婦であることを希望”する人が多いとみることもできよう。

図表 1-4 夫に十分な収入があれば、妻は専業主婦がよいと考えるか



2. 親世帯との住まい方による「家庭生活・家族関係」の満足度

「親同居世帯」と「親非同居世帯」の比較（子どものいる世帯）

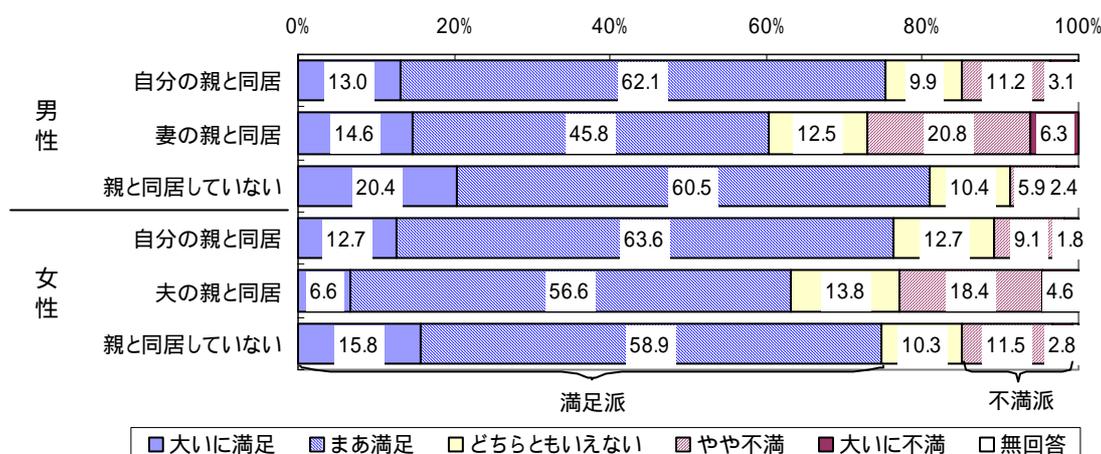
男女ともに配偶者の親と同居している人の「家庭生活・家族関係」の満足度が低い
 妻の最大の不満点は、核家族では「家計」、親と同居していると「家庭内の雰囲気」

(1) 「家庭生活・家族関係」に満足している割合は、配偶者の親と同居している人が低い(図表2-1)

「家庭生活・家族関係」に関する「満足派」の割合は、男性の場合、核家族(親非同居世帯)(80.9%)、自分の親との同居(75.1%)、妻の親との同居(60.4%)の順。一方、女性は、自分の親との同居(76.3%)が核家族(74.7%)を僅かに上回り、夫の親との同居では63.2%。

男女ともに配偶者の親と同居している人に「不満派」が比較的多い。とくに妻の親と同居している男性の「不満派」が目立っているが、一方で「大いに満足」している人も14.6%存在している。

図表2-1 「家庭生活・家族関係」に関する「満足派」と「不満派」の割合



(2) 満足点は「家族の健康状態」と「子どもの成長」(図表2-2、2-3)

「満足派」が「とくに満足を感じる点」のトップは、親同居世帯では、男女ともに「家族の健康状態」。一方、核家族の男性の第1位は「子どもの成長」。

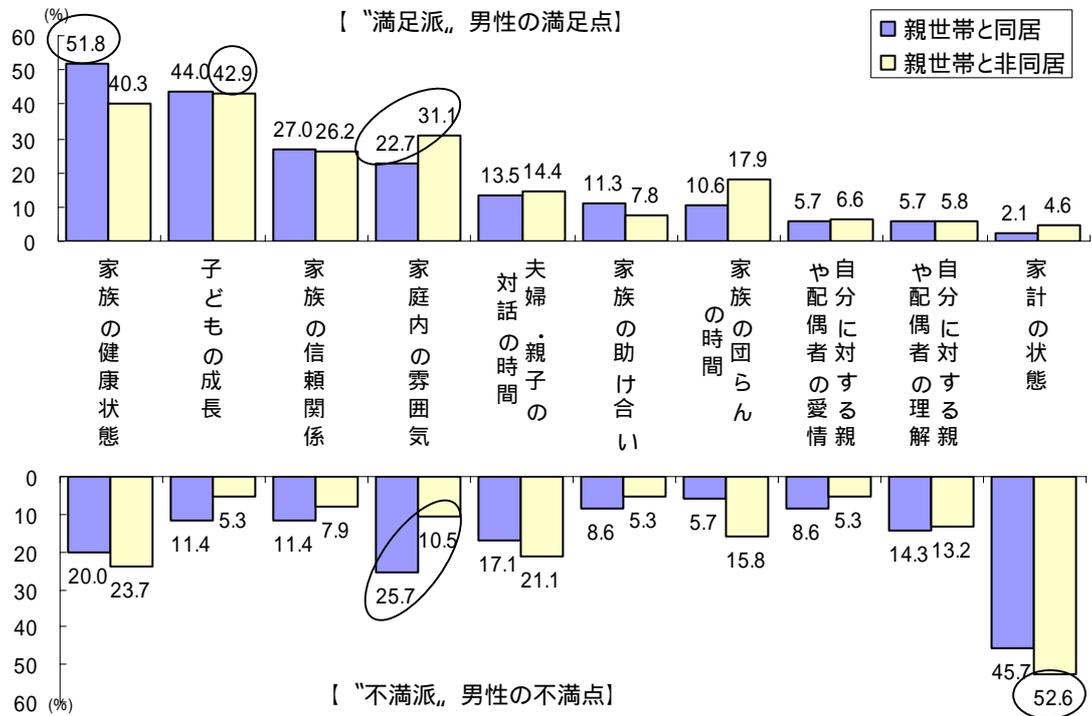
「家庭内の雰囲気」をあげる割合は、男女ともに核家族のほうが高い。

「家族の助け合い」は女性が男性を大きく上回る。とくに親と同居の女性が高い。

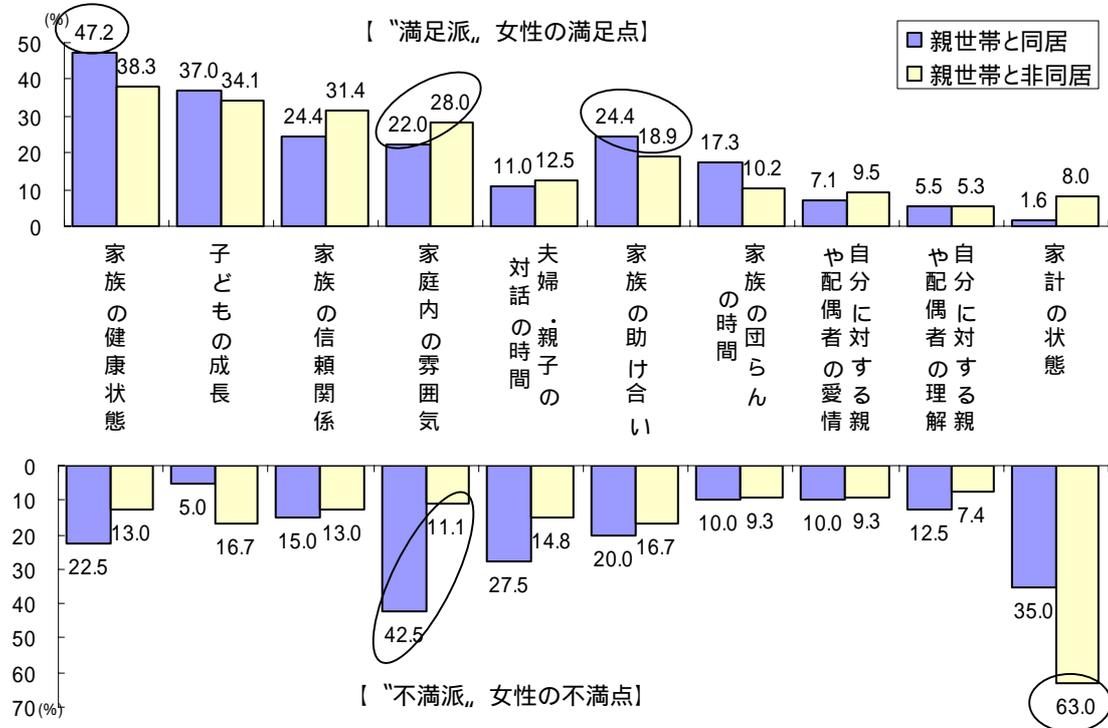
(3) 不満点は「家計の状態」。親同居世帯では「家庭内の雰囲気」も(図表2-2、2-3)

「不満派」が「とくに不満を感じる点」は、核家族では男女とも「家計の状態」がトップ。一方、親世帯と同居している女性では「家庭内の雰囲気」が「家計」を上回る最大の不満点となっており、男性も親と同居世帯ではこれが2位。

図表 2 - 2 「家庭生活・家族関係」の満足点と不満点【男性】(複数回答)



図表 2 - 3 「家庭生活・家族関係」の満足点と不満点【女性】(複数回答)



3. 子どもを持つことのプラス面とマイナス面

共働きで「子どものいる世帯」と「子どものいない世帯」の比較

子どものいる女性は「子どもを通じて人間関係が広がる」を実感
ことわざどおり、子どもは「案ずるより産むが易し」

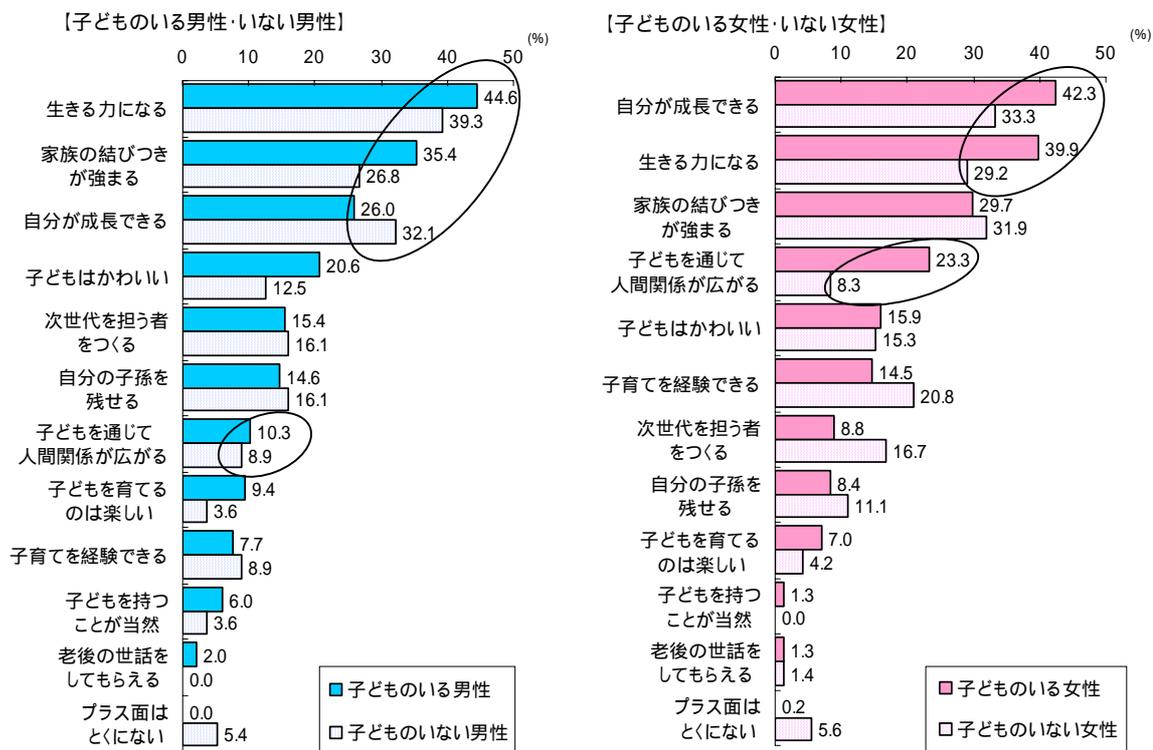
(1) 子どもを持つことのプラス面のトップは、男性は「生きる力になる」、女性は「自分が成長できる」

共働き世帯の男女に子どもを持つことのプラス面を尋ねた結果は図表3-1のとおり。男性にとっては、「生きる力になる」がトップで、次いで、子どものいる男性は「家族の結びつきが強まる」、子どものいない男性は「自分が成長できる」。

一方、女性は「自分が成長できる」をあげる人が最多。子どものいる女性の約4割が「自分が成長できる」と「生きる力になる」をあげており、子どものいない女性よりそれぞれ約10ポイント高い。子育てを体験した女性の実感がうかがえる。

また、「子どもを通じて人間関係が広がる」は、子どものいる女性が、男性や子どものいない女性と比べて際立って高い。実体験にもとづく意見と考えられる。

図表3-1 子どもを持つことのプラス面（複数回答）



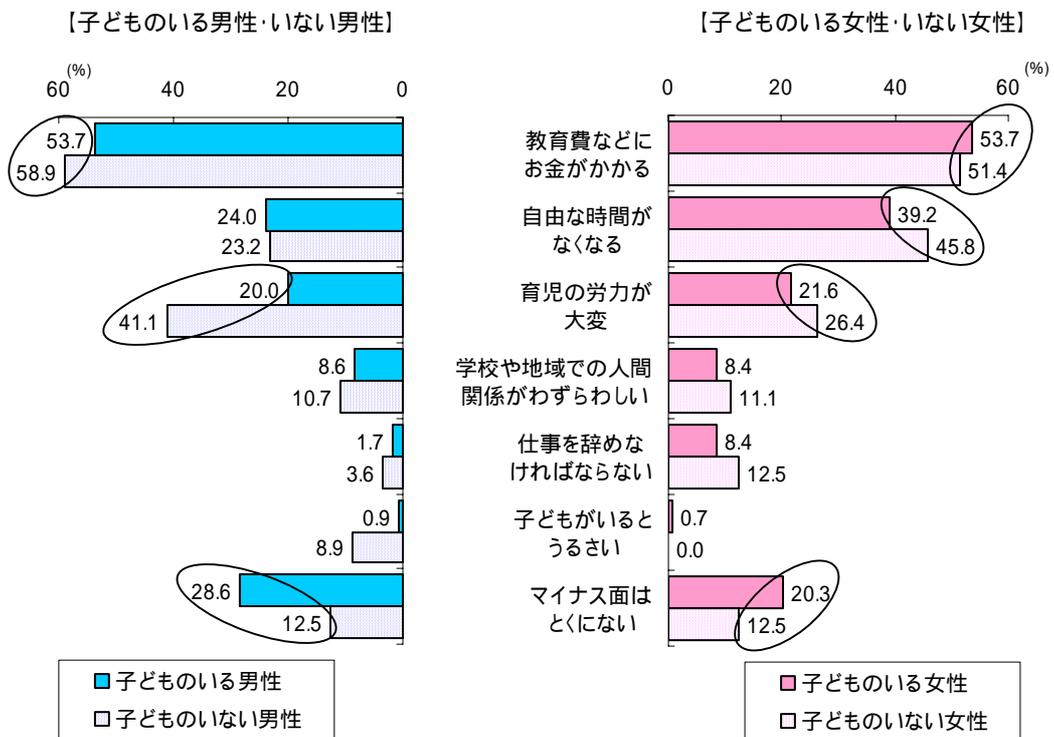
(2) 子どもを持つことのマイナス面のトップは、男女とも「教育費などにお金がかかる」
 子どもを持つことのマイナス面を尋ねた結果は図表3-2のとおり。

男女ともに、半数強の人が「教育費などにお金がかかる」をあげている。

子どもの有無で顕著な差がみられたのが「育児の労力が大変」と「マイナス面はとくにない」。いずれも「案ずるより産むが易し」ということわざどおりの結果となっているが、女性は子どもの有無による差が小さいのに対し、男性は倍以上差が開いている。子どものいない夫婦のうち、実際には育児の負担が小さいと思われる男性のほうが「育児の労力が大変」と答える割合が高い点が注目される。

また、女性は「自由な時間がなくなる」をあげる人が4割前後と多いが、この項目も子どものいる人のほうが6.6ポイント低い点が注目される。

図表3-2 子どもを持つことのマイナス面（複数回答）



4. 家事の分担、子育ての分担の考え方

「子どものいる共働き世帯」「子どものいない共働き世帯」

「子どものいる専業主婦世帯」の比較

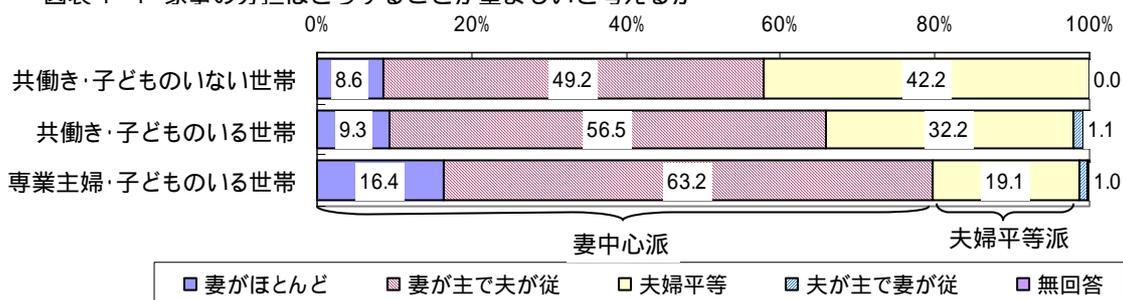
家事の分担について、子どものいる世帯のほうが「妻中心派」が多い
 子育ての分担は、どの世帯でも「夫婦平等派」が過半数

(1) 子どものいる世帯では、家事の分担は「妻中心派」が多い(図表4-1)

“家事の分担はどうすることが望ましいと考えるか”という質問に対し、「妻がほとんど」または「妻が主で夫が従」と回答した「妻中心派」は、子どものいる専業主婦世帯79.6%、子どものいる共働き世帯65.8%、子どものいない共働き世帯57.8%であり、子どものいる世帯のほうが、いない世帯よりも「妻中心派」が多い。

一方、専業主婦世帯にもかかわらず、「夫婦平等」が望ましいと答えた人が、少数派とはいえ19.1%も存在。このように回答した人は、介護や看病等通常の家事以外の負担がある場合であろうか。あるいは、「平等」を実際の時間や負担量ではなく、精神面でとらえているのかもしれない。

図表4-1 家事の分担はどうすることが望ましいと考えるか

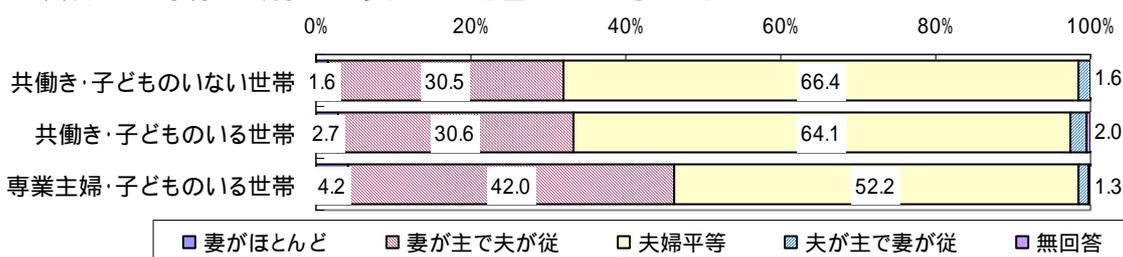


「専業主婦・子どものいない世帯」は、サンプル数が少ないため未記載(次表も同じ)

(2) 子育ての分担は、「夫婦平等派」が過半数(図表4-2)

一般論として、“子育ての分担はどうすることが望ましいと考えるか”という質問では、家事の分担と比較して、いずれの世帯でも「夫婦平等派」の割合が高い。「夫婦平等派」の割合は、子どものいない共働き世帯66.4%、子どものいる共働き世帯64.1%、子どものいる専業主婦世帯52.2%といずれも5割を超えている。「妻中心派」が多いと思われた専業主婦世帯においても、「夫婦平等派」が過半数を占めている点が注目される。

図表4-2 子育ての分担はどうすることが望ましいと考えるか



5. 子どもを通じた近隣や地域社会とのつきあい

共働きで「子どものいる世帯」と「子どものいない世帯」の比較

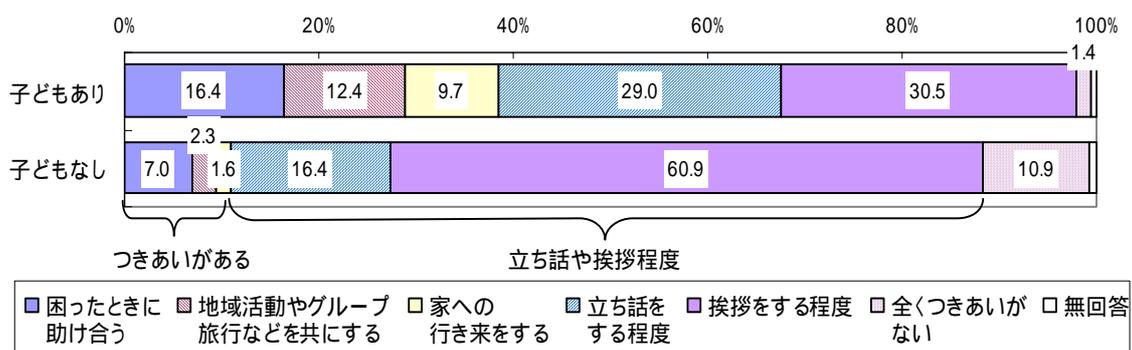
子どもを通じて、近隣や地域社会とのつきあいが深まる傾向が顕著

(1) 「子どものいる世帯」は、近隣や地域の人々とのつきあいが深い(図表5-1)

「困ったときに助け合う」「地域活動やグループ旅行などを共にする」「家への行き来をする」など、何らかのつきあいがある割合は、「子どものいる世帯」が38.5%であるのに対し、「子どものいない世帯」は10.9%と30ポイント近い開きがある。

一方、「立ち話や挨拶程度」ととどまっている割合は、「子どものいる世帯」では59.5%だが、「子どものいない世帯」(77.3%)と比べると17.8ポイント低い。また、「全くつきあがない」とする割合も1.4%に過ぎず、「子どものいない世帯」(10.9%)と比べるとごく少数。

図表5-1 近隣や地域の人々とのつきあいの現状

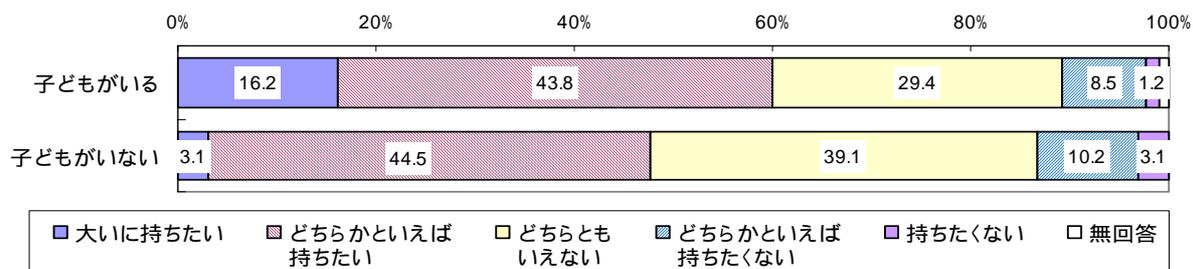


(2) 「子どものいる世帯」は今後もつきあいを深めたい意向(図表5-2)

“今後、近隣や地域の人々とのつきあいをもちたいと思うか”との質問に対して、「大いにもちたい」と回答した割合は、「子どものいる世帯」が16.2%であるのに対し、「子どものいない世帯」では3.1%と、顕著な差がある。

「子ども」を通じて、近隣や地域社会とのつきあいを深めていこうとする姿が見受けられる。

図表5-2 近隣や地域の人々とのつきあいに対する今後の意向



6. 子どものいない共働き夫婦の生活満足度と職業観

子どものいない共働き夫婦では、現在の生活に関して、夫よりも妻のほうが満足度が高い

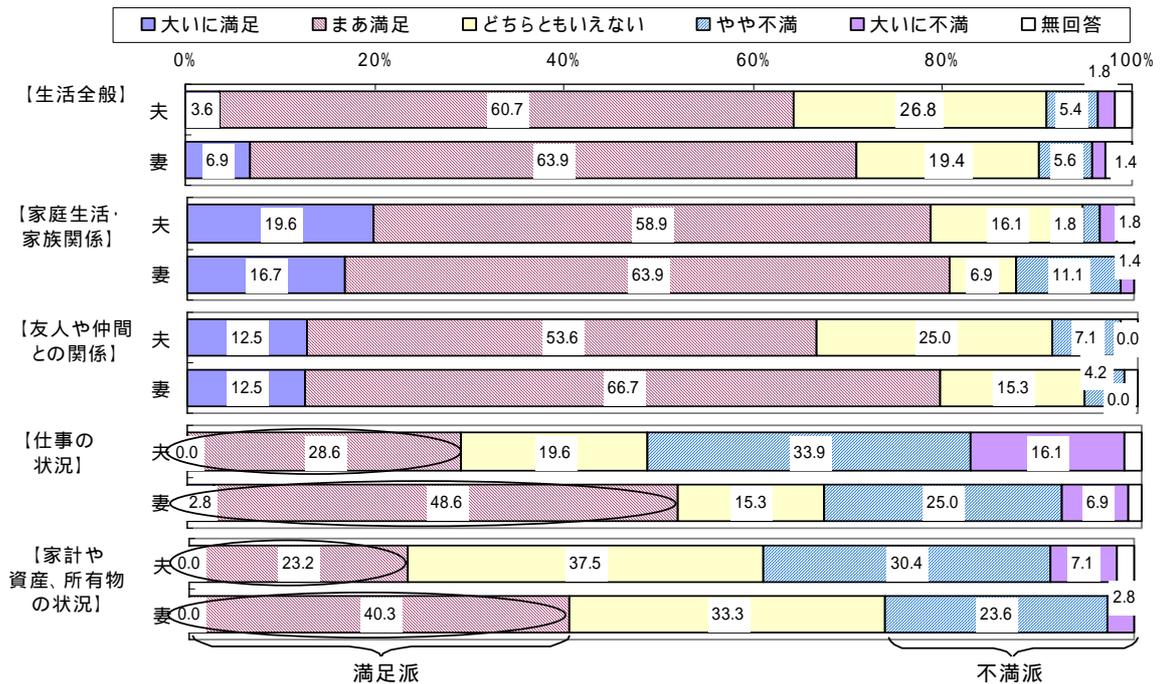
子どものいない共働きの女性は、収入よりも仕事の内容を重視

(1) 子どものいない共働きの女性は、生活満足度が高い(図表6-1、6-2)

子どものいない共働きの夫婦で、“満足派”（「大いに満足」と「まあ満足」）の割合を比較すると、「生活全般」「家庭生活・家族関係」「友人や仲間との関係」「仕事の状況」「家計や資産、所有物の状況」の5項目すべてにおいて、妻の“満足派”の割合は夫を上回っている。

とくに、「仕事の状況」「家計や資産、所有物の状況」は夫婦の満足度の差が大きく、それぞれ22.8ポイント、17.1ポイント妻が夫を上回っている。なお、子どものいる共働き夫婦では、「仕事の状況」「家計や資産、所有物の状況」の満足度は妻のほうが高いが、子どものいない共働き夫婦に比べると夫婦間の差は小さく、逆に「生活全般」「家庭生活・家族関係」の項目では、夫のほうが高い。

図表6-1 子どものいない共働き夫婦の生活満足度



図表6-2 子どものいる共働き夫婦の生活満足度（“満足派”の割合）（％）

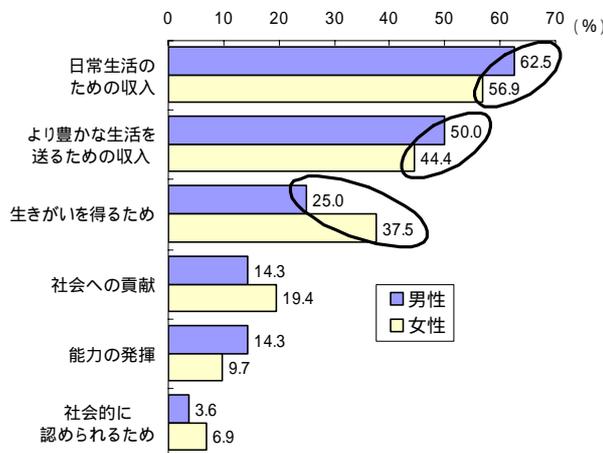
	生活全般	家庭生活・家族関係	友人や仲間との関係	仕事の状況	家計や資産、所有物の状況
夫	66.3	78.0	65.7	43.7	28.6
妻	64.1	69.6	72.2	53.3	31.3

(2) 子どものいない共働き女性は、仕事に生きがいを求め、仕事の内容を重視

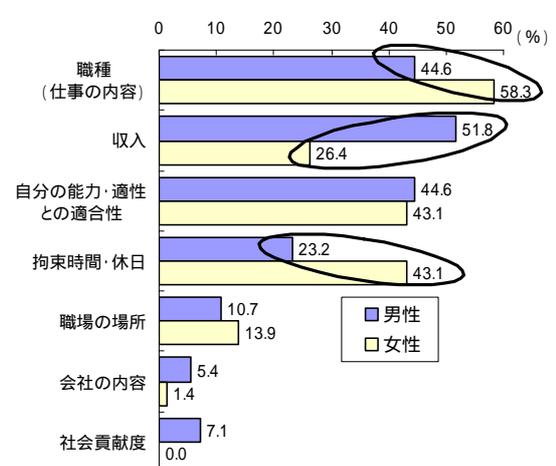
働く目的を尋ねたところ、男女とも「日常生活のための収入」「より豊かな生活を送るための収入」が1位、2位を占めた。3位の「生きがいを得るため」では、男女間で大きな差があり、女性が男性を10ポイント以上上回った(図表6-3)。

また、仕事を選ぶときの判断材料を質問したところ、男性ではトップ(51.8%)の「収入」が、女性ではほぼその半分の26.4%にとどまっている。それに対し、女性は「職種(仕事の内容)」「拘束時間・休日」を重視する人が男性より多い。共働き世帯の女性が、仕事選びの際に収入以外の要素を重視する傾向にあるのは、夫にも収入があって余裕があるからとみられる(図表6-4)。

図表6-3 働く目的(複数回答)



図表6-4 仕事を選ぶときの判断材料(複数回答)



7. 50歳代後半の男女によって異なる家族観、夫婦観

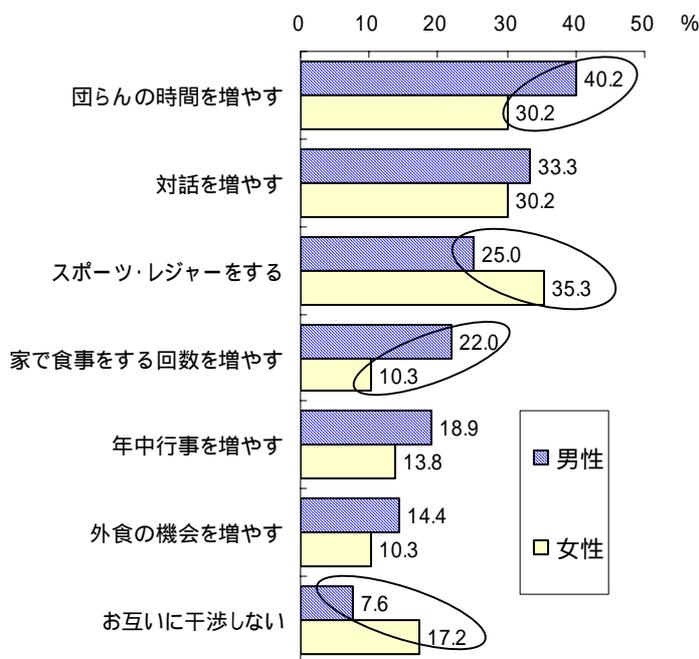
定年が近い50歳代後半の男性は、家族や夫婦の絆を強めることを重視
一方、女性は一定の距離をおく傾向。男女間で微妙な温度差

(1) 家族との生活で重視することは、男女間で微妙に相違(図表7-1)

“家族との生活で今後望むこと”を尋ねたところ、「団らんの時間を増やす」、「家で食事をする回数を増やす」といった、家の中で家族の密着度合いを高めることの割合は、男性のほうが女性よりそれぞれ10ポイント程度高い。

これに対して女性は、外で楽しむ「スポーツ・レジャーをする」が最も多く、男性を10.3ポイント上回っている。また、「お互いに干渉しない」をあげた女性が17.2%に達し、男性を9.6ポイント上回っている点が特筆される。

図表7-1 家族との生活で今後望むこと(複数回答)



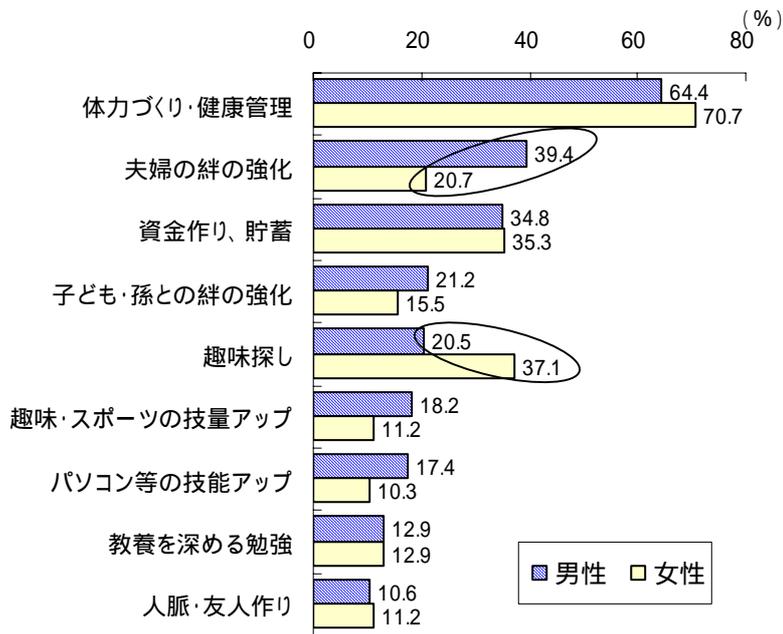
(2) 夫婦のあり方についても男女間で相違(図表7-2、図表7-3)

“将来の生活のために今後取り組みたいこと”を尋ねた結果、大きく考え方が分かれたのは、「夫婦の絆を強める」の割合で、男性39.4%に対し、女性20.7%と18.7ポイントの開き。この項目は、男性では定年が近づくにつれ選択率が高まり50歳代後半で最も高くなるのに対し、女性は50歳代後半になると大きく下がり、差が拡大する。

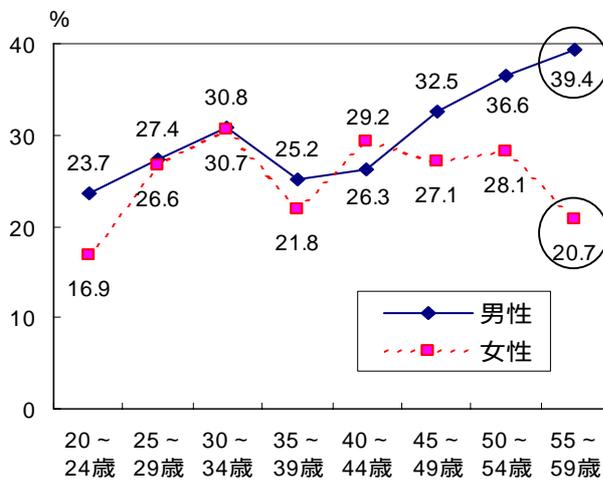
女性ではその分「趣味探し」と答えた人が多く(37.1%)、男性を16.6ポイント上回っているのが目につく。

一般的に、「定年が近くなると家庭へ戻ってくる男性」と「家族・夫婦間で一定の距離も必要と考える女性」の対比が言われてきたが、今回の調査はそれを裏付ける結果となった。

図表 7-2 将来の生活のために今後取り組みたいこと（複数回答）



図表 7-3 「夫婦の絆の強化」と回答した割合（年代別）



8 . 50 歳代後半の世代の定年後の住まい方に関する意識

男女ともに定年後は「夫婦または単身で住む」がトップ
次いで、男性は息子世帯と「同居」、女性は子ども世帯と「近居」を希望

(1) 定年後は「夫婦または単身で住みたい」が男女ともに 5 割 (図表 8)

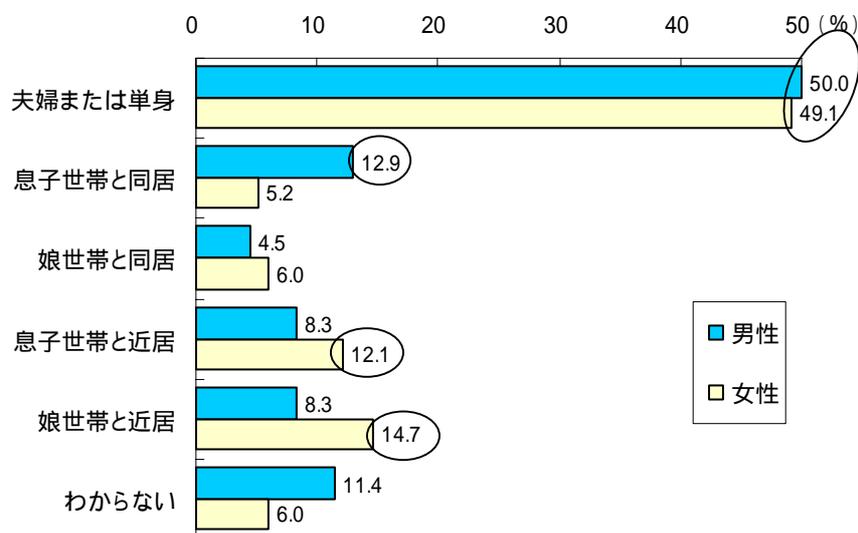
50 歳代後半の男性の 50.0%、女性の 49.1%が、定年後は「夫婦」または「単身」で住むことを希望している。

(2) 男性は息子世帯と「同居」、女性は子ども世帯と「近居」を希望

男性は息子、娘世帯との同居希望 (17.4%) と近居希望 (16.6%) がほぼ同水準である。同居する相手としては息子世帯を希望する人が多く、12.9%を占める。

一方、女性は近居希望 (26.8%) が同居希望 (11.2%) より 15.6 ポイントも高い。近居については、娘世帯との近居を希望する人が息子世帯よりやや多い。女性は同居による気遣いを回避したいという気持ちが強いのであろうか。

図表 8 定年後に希望する住まい方



9. パラサイト系シングル男女によって異なる生活観

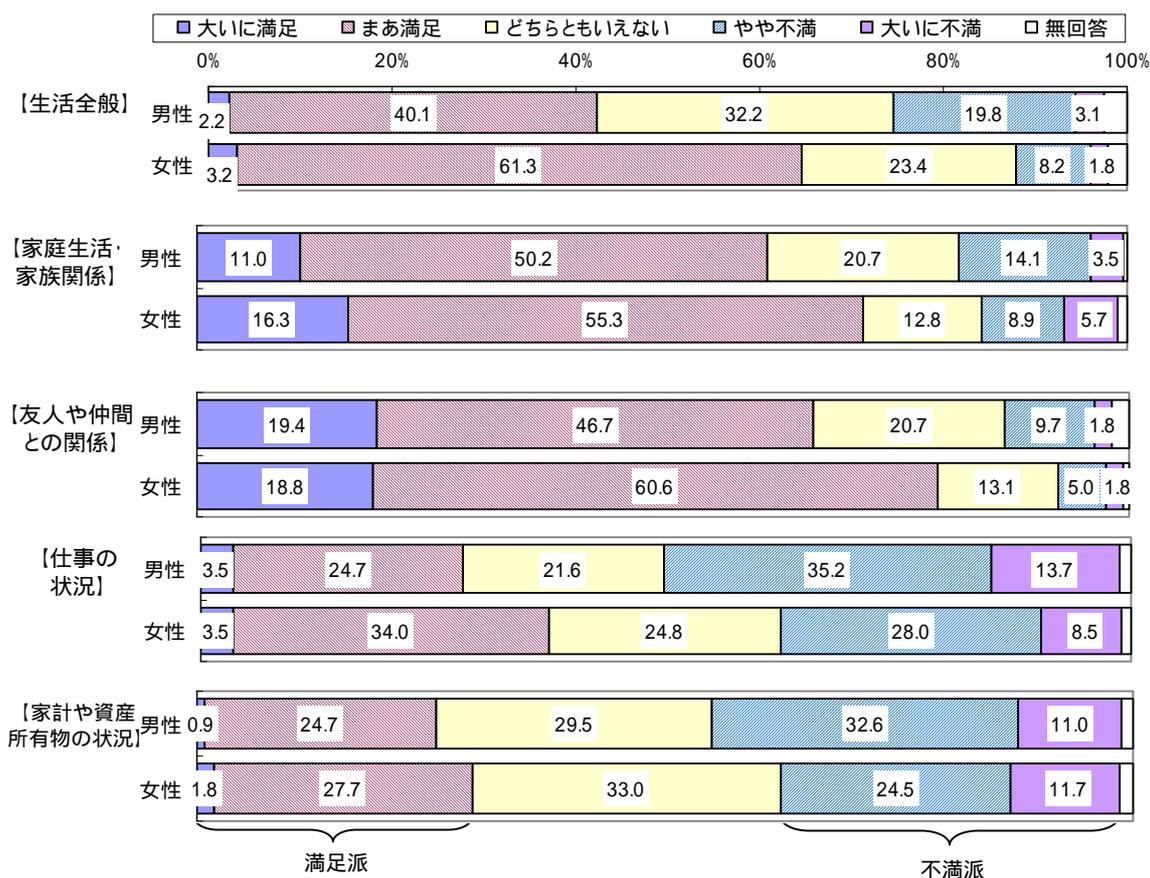
パラサイト系シングルの男性は、女性より生活満足度が低く、悲観的結婚願望は男性のほうが強い

(1) 生活満足度は、すべての項目で女性のほうが高い

親と同居している単身者（パラサイト系シングル）に、生活満足度に関する5項目を尋ねたところ、すべての項目で女性の「満足派」（「大いに満足」と「まあ満足」）の割合が男性を上回った。とくに差が大きいのは「生活全般」、「友人や仲間との関係」の2項目（図表9-1）。

ちなみに、回答者全体の平均との比較では、パラサイト系シングルの男性の生活満足度が目立って低い。とくに「生活全般」の「満足派」の割合は、全男性では59.4%であるが、パラサイト系シングルの男性では42.3%に過ぎず、17.1ポイントの開き（図表9-2）。

図表9-1 パラサイト系シングルの生活の満足度



図表 9 - 2 生活 “満足派” の割合

(%)

	男 性		女 性	
	パラサイト系シングル	回答者全体	パラサイト系シングル	回答者全体
生活全般	42.3	59.4	64.5	64.4
家庭関係・家族関係	61.2	70.8	71.6	70.8
友人や仲間との関係	66.1	65.2	79.4	74.5
仕事の状況	28.2	39.6	37.6	42.4
家計や資産、所有物の状況	25.6	28.3	29.4	31.4

こうした状況を反映してか、生活について「楽観的に考える」と「どちらかといえば楽観的に考える」をあわせた “楽観派” の割合は、パラサイト系シングルの男性では 45.4% と半数に満たず、女性（65.2%）より 20 ポイント近く低い。

また、パラサイト系シングルの男性の “楽観派” は男性全体の平均より少ないが、女性は逆に多くなっている点が注目される（図表 9 - 3）。

図表 9 - 3 生活に関する “楽観派” “悲観派” の割合 (%)

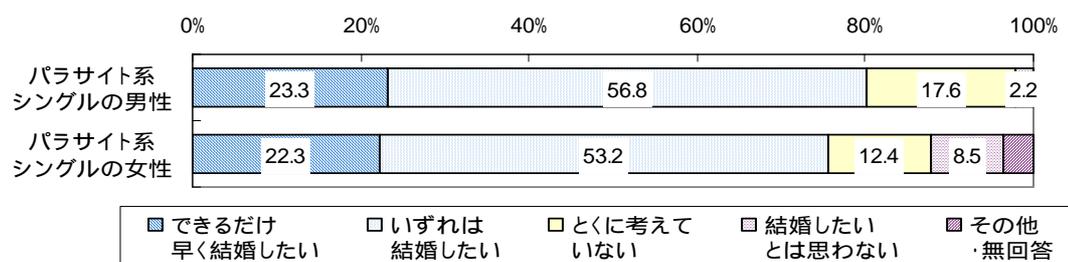
		楽観派	悲観派
男 性	パラサイト系シングル	45.4	17.6
	回答者全体	51.7	15.1
女 性	パラサイト系シングル	65.2	13.8
	回答者全体	61.8	12.1

(2) 結婚願望は男性のほうが強い (図表 9 - 4)

パラサイト系シングルの約 8 割が結婚を望んでいる。

男女別にみると、「できるだけ早く結婚したい」という人は 1 ポイントしか差がないものの、「いずれは結婚したい」という人は 3.6 ポイントの差がある。一方「結婚したいとは思わない」という回答は、男性 2.2% に対し、女性は 8.5% と 6.3 ポイントの開き。結婚願望は、女性より男性のほうが強い。

図表 9 - 4 パラサイト系シングルの結婚の意向



10. 30歳代未婚者の生活満足度と結婚観

同年代の既婚者、20歳代の未婚者との比較

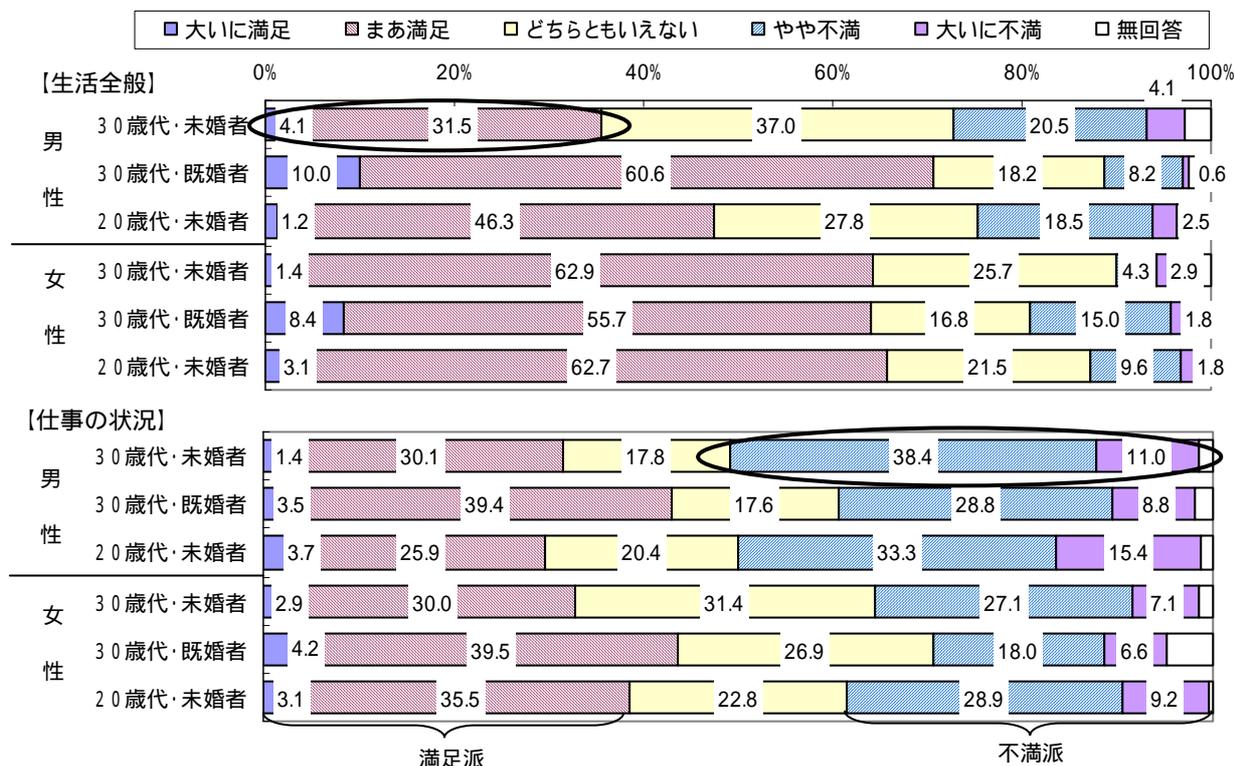
30歳代の未婚男性は、生活全般、仕事の状況に関する満足度が低い
 結婚のプラス面として、「社会に認められる」と回答した30歳代の未婚男性が4人に1人存在
 30歳代の未婚女性では、結婚のマイナス面として「自由な時間が減る」と考えている人が多い

(1) 30歳代の未婚男性は、生活や仕事の状況に満足している人が少ない

30歳代の未婚男性では、「生活全般」についての“満足派”の割合は、35.6%。同じ30歳代の既婚男性(70.6%)の約2分の1であり、20歳代の未婚男性(47.5%)と比べても、10ポイント以上低い。一方、女性は、30歳代の既婚・未婚者、20歳代の未婚者のいずれも、“満足派”が約3分の2を占めており、30歳代の未婚男性の“満足派”の少なさが際立つ結果(図表10-1)。

30歳代の未婚男性は、「仕事の状況」についても不満を抱いている人が多く、“不満派”の割合は、ほぼ5割に達する。20歳代の未婚男性(48.7%)とはあまり差がないものの、同じ30歳代の既婚男性(37.6%)と比べると10ポイント以上高い。20歳代・30歳代の未婚男性は、無職や待遇が不安定なパート・アルバイト・派遣等の割合が30歳代の既婚者より高く、そのことが「仕事の状況」の不満度が高くなっている一因とも考えられる(図表10-2)。

図表10-1 生活全般・仕事の状況に関する満足度



図表 10-2 30 歳代の既婚・未婚、20 歳代の未婚の男性の職業

(%)

男性	会社員・ 団体職員	公務員	自営業・ 自由業	パート・ アルバイト ・派遣等	無職	その他
30 歳代・未婚者	74.0	4.1	4.1	9.6	2.7	5.5
30 歳代・既婚者	71.2	12.4	13.5	1.2	0.6	1.2
20 歳代・未婚者	65.4	4.3	9.9	15.4	3.1	1.9

(2) 結婚のプラス面、マイナス面 (図表 10-3、図表 10-4)

結婚のプラス面を尋ねたところ、30 歳代の未婚男性は、女性や同年代の既婚男性、20 歳代の未婚者に比べて、「社会に認められる」を選択した人が多い。

逆に、結婚のマイナス面を尋ねた質問では、30 歳代の未婚女性に、「自由な時間が減る」「育った環境の違う異性と生活しなければならない」を選んだ人が多いことが目立つ。単身の自由な生活を楽しんでいる人が多いためであろうか。

図表 10-3 結婚のプラス面 (複数回答)

		「社会に認められる」
男性	30 歳代・未婚者	23.3%
	30 歳代・既婚者	11.8%
	20 歳代・未婚者	13.0%
女性	30 歳代・未婚者	12.9%
	30 歳代・既婚者	9.6%
	20 歳代・未婚者	4.4%

図表 10-4 結婚のマイナス面 (複数回答)

		「自由な時間が減る」	「育った環境の違う異性と生活しなければならない」
男性	30 歳代・未婚者	49.3%	4.1%
	30 歳代・既婚者	51.2%	9.4%
	20 歳代・未婚者	56.8%	4.9%
女性	30 歳代・未婚者	70.0%	21.4%
	30 歳代・既婚者	46.7%	15.0%
	20 歳代・未婚者	44.7%	14.0%

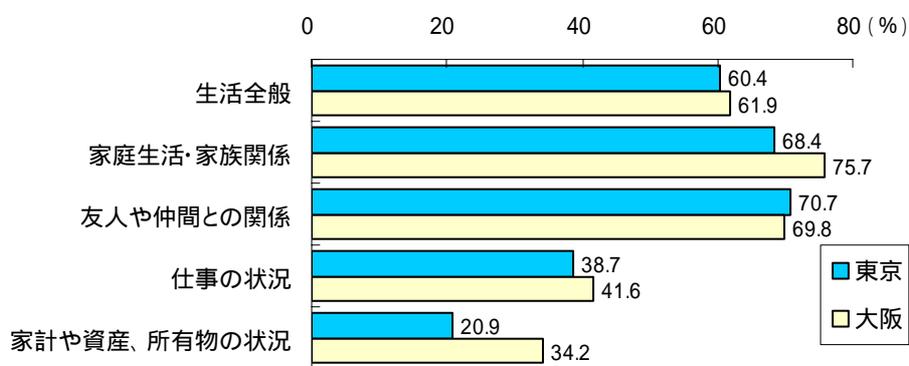
11. 東京と大阪の生活観の比較

大阪のほうが、現在の生活に「満足」している人がやや多い
 大阪のほうが伝統や習慣を尊重
 「近隣とつきあいがある」は東京 2 割、大阪 3 割

(1) 大阪のほうが現在の生活の “満足派” がやや多い (図表 11- 1)

「生活の満足度」は、東京に比べ大阪のほうが 4 項目で “満足派” (「大いに満足」と 「まあ満足」) が多い。とくに「家計や資産、所有物の状況」では大阪が 13.3 ポイント上回る。現状を肯定的にとらえようとする、大阪人気質の表れか。

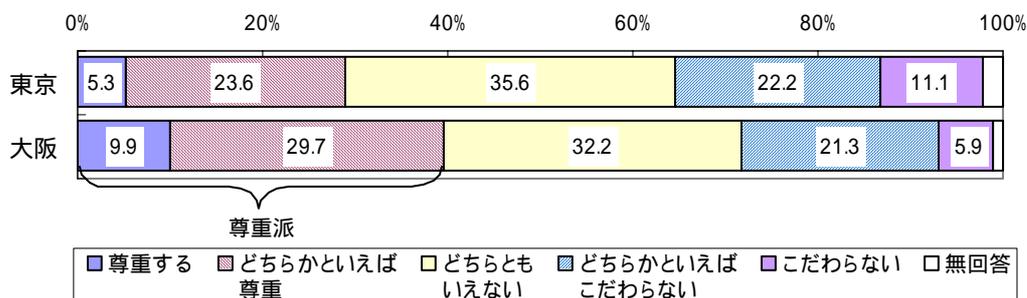
図表 11- 1 「生活の満足度」に関する東京・大阪の “満足派” の割合



(2) 習慣・伝統を尊重する意識は西高東低

大阪は習慣・伝統の “尊重派” (「尊重する」と 「どちらかといえば尊重する」) が 39.6%。東京は 28.9% で 10.7 ポイントの差がある (図表 11- 2)。

図表 11- 2 習慣や伝統、慣例を尊重するか

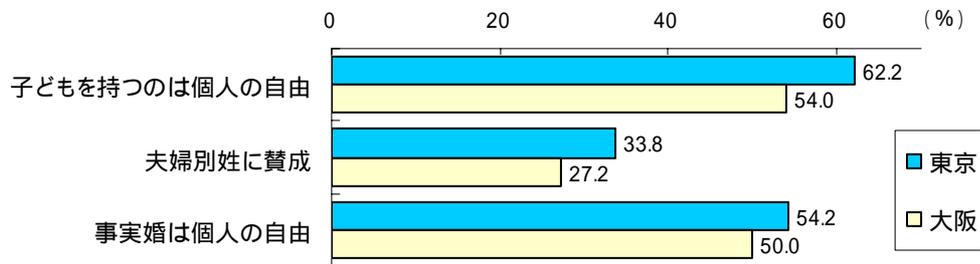


「子どもを持つこと」「夫婦別姓」「事実婚」に対する考え方も、大阪のほうが保守的な価値観を持つ人が多いようである (図表 11- 3)。

京都や奈良など長い歴史を持つ地域と文化を共有する大阪は、外見は近代的な都市景観であるものの、伝統的な価値観を持つ傾向があるのだろうか。

図表 11-3 「子どもを持つこと」「夫婦別姓」「事実婚」に関する考え方

下記のように考える人の割合

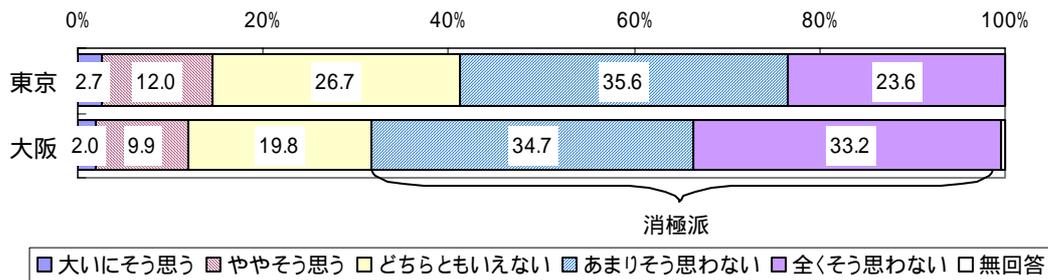


(3) サイフの紐の固い大阪人

“欲しい物はローンを利用して買うか”に対して“消極派”（「全くそう思わない」と「あまりそう思わない」）は大阪 67.9%、東京 59.2%（図表 11-4）。

大阪人の“始末”（儉約）ぶりの表れとみられる。

図表 11-4 「欲しい物はローンでも買うか」に関する東京・大阪の考え方



(4) 近隣や地域の人々とのつきあいは、大阪のほうが多い（図表 11-5）

現在、近隣等とのつきあいがあるのは、東京 20.9%、大阪 30.2%。

今後、近隣等とのつきあいをもちたいという意向は、東京 47.1%、大阪 50.5%。大阪のほうが近隣、地域の人々とのつきあいに積極的のようだ。

図表 11-5 「現在と将来の近隣等とのつきあい」に関する東京・大阪の考え方

